

12月号

DECEMBER 2025

# MJIA

## M A G A Z I N E



2025年1月のコルカタ市内

公益財団法人日印協会

住 所 : 〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階  
電 話 番 号 : 03-6272-4408 <https://www.japan-india.com>





世界をつなぐ、あたらしい空へ。



日印協会は、明治36年（1903年）の設立以来、日印間の政治・経済・文化交流に貢献しています。

## 目次

齋木理事長のナグマ・モハメド・マリック新駐日インド大使への表敬訪問	4
インドの文学祭—議論と朗読の祭典 India's Literature Festivals: Celebrations of Discourse and Recitation	5
インディア・メーラー2025を終えて	10
インド紹介 ゴア州	11
インド映画公開情報	13
書籍紹介：『菅義偉 官邸の決断』 著者：菅義偉	15
「第2回インド・キャリアカフェ」開催報告	16
日印協会からのご案内	17
編集後記	18
法人会員一覧	19

**インドの良き食文化をお伝えする事が私たちの使命です。（全国配送承ります）**



シタルのインドカレー  
変わらぬ人気のカレー  
をそのままのお味で、  
ご家庭へ。

社長の増田泰親は学生時代、当時九段にあった印度料理アジャントでアルバイトとして入店し、大学卒業後はコックとして修業を積み、1981年に千葉市で印度料理シタルを創業いたしました。



アルフォンソマンゴードリンク  
アルフォンソマンゴー  
といえばシタル。自信  
ある逸品です。

社長の増田泰親が情熱を傾けるアルフォンソマンゴーから作る無添加ドリンクです。毎年インドの農園へ行き品質を確認して原料となるマンゴーを輸入しています。



野生黒蜂蜜 ハンティングハー  
インド メルガートの  
自然保護区でハニーハ  
ンターによって採集さ  
れる貴重な蜂蜜です。



おうちでつくれるチャイセット  
インドのパザールで飲  
む味そのまま！おうち  
で簡単チャイキット。  
マサラとレシピ付。

味と香りの調へを奏でる since1981  
**シタル 印度料理シタル**  
千葉県千葉市花見川区検見川町 1-106-16  
mail : info@sitar.co.jp

■上記以外の商品も多数取り揃えております。  
■個人様、企業様向け季節のギフトなどのコーディネートもご相談承ります。

ご注文・お問い合わせは **TEL 0120-166-358** <http://www.e-sitar.jp/> へ



## 齋木理事長の ナグマ・モハメド・マリック新駐日インド大使への表敬訪問

齋木昭隆理事長は、この度駐日インド大使として着任されたばかりのマリック大使を、11月28日（金）の夕刻大使執務室に表敬しました。

齋木理事長からは、心から歓迎する意を表明し、日印両国の相互理解を促進するよう、ともに頑張りたいと確認しました。また日印協会が今後新しい企画として、大使とともに進めていきたいことなどアイデアを披露し、大使からはともに成功に向けて一致協力しよう、との力強い意を表明いただきました。具体的には、追って会員の皆様に、新企画行事催行の都度ご案内することとなります。

また、具体的な内容には触れることはできませんが、複数のアジア諸国に対する、日本とインドの立ち位置についてなど、お互いの考えを述べるなど意見交換もありました。

大使からは、インド側から日本への輸出促進について、大いに関心を持っているとの話もありました。

なお同大使の歓迎レセプションにつきましては、詳細が固まり次第皆様にご案内いたしますので、お楽しみに！



【マリック大使略歴（抜粋）】：1991年にインド外務省入省　英語の他、フランス語、ヒンディー語、ウルドゥー語、マラヤラム語を話す。趣味は、インド古典舞踊と音楽、英文学、運動、栄養学

駐チュニジアインド大使、在ブルネイ・ダルサラーム国インド高等弁務官を経て、2025年11月まで駐ポーランドインド大使

# インドの文学祭—議論と朗読の祭典

## India's Literature Festivals: Celebrations of Discourse and Recitation

作家／博士（人文科学）／インド工科大学グワハティ校客員教授／  
公益財団法人日印協会顧問 山田真美

インドと言えば、IT産業を中心とした「理系脳の強さ」や、ビジネスに関する話題ばかりが取り沙汰される昨今ですが、実際にインドで暮らしたり滞在してみると、この国がいかに文学的で詩的な要素を多く含んでいるかに気づかされます。

たとえば、インドで絶大な人気を誇る『バガヴァッド・ギーター』（国民文学『マハーバーラタ』の最重要部分）は、700行（シュローカ）から成るサンスクリット語の韻文詩ですし、インド国歌『ジャナ・ガナ・マナ』は、アジア人として初のノーベル賞に輝いたラビンドラナート・タゴールの手になる格調高い詩にほかなりません。

インド人は生まれ落ちた瞬間から、日常的に、こうした詩的なリズムの中で生きていくといえるのではないのでしょうか。

その中で特筆したいことのひとつが、インド各地で繰り広げられる文学祭（literature festivals）の数の多さです。

インドの文学祭には、作家や詩人、学者、翻訳家、ジャーナリスト、編集者、出版関係者といった人々が一堂に集い、一つのテーマで熱い議論を繰り広げたり、身振り手振りを交えながら大きな声で自作の詩を朗読したりと、実に活発で濃厚な時間が共有されます。それも一日だけではなく、一般的には二日または三日、あるいはそれ以上の長きにわたってプログラムがつづくのです。

会場となる建物には華やかな装飾がほどこされ、出版物をはじめとする物販ブースが並び、時には楽隊も出て、まさにお祭り好きなインド人の面目躍如といった趣です。

私は今年、インドで開催された二つの大きな文学祭——「ウンメーシャ2025」と「第七回アルナーチャル文学祭」——に招待され、パネルディスカッションや朗読のコーナーに参加して、インド内外の文学関係者と交流を深めてまいりました。本稿では、日本ではほとんど知られていない文学祭を通して、改めてインドとインド人に想いを巡らしてみたいと思います。

### サヒティヤ・アカデミー（インド国立文学アカデミー）との出会い

はじめに、私がインドの文学祭に招かれるようになった経緯を簡単にお話しします。

1990年にICCR (Indian Council for Cultural Relations=インド文化交流評議会)の招聘でインド文化の研究を始めた私は、その成果を最初の3冊の著書——『吉祥天と行くインドの旅』(インド政府観光局、1993)、『インド大魔法団』(清流出版、1997)、『マンゴーの木』(幻冬舎、1998)——にまとめました。さらに、そのうちの後者2冊を英語に訳し、"Wheel of Destiny" (「運命の輪」の意、Golden Eagle Press、2000) のタイトルでインド国内にて上梓しました。

このうちの英語版が、サヒティヤ・アカデミー (Sahitya Akademi=インド国立文学アカデミー、以下アカデミー) の目に止まったらしいのです。

アカデミーはインド政府・文化省のもとで活動する自治組織。設立はインド独立から7年後の1954年で、現役の首相であったジャワハルラール・ネルーが初代会長を務めました。「サヒティヤ」は、文学または文学作品を意味するサンスクリット語です。

そのアカデミーから私のもとに、2007年のある日突然、「貴殿にアナンダ・クマラスワミ博士フェローシップを授けます」という通達が届きました。選考理由のところに書かれていたのは、「文学活動を通じた印日相互理解の促進における功績」の一文。

青天の霹靂でした。まだインド研究を始めて日の浅い自分が選ばれたことは予想外でしたし、大きなプレッシャーでしたが、少し考えた末に覚悟を決めて通達を受諾することにしました。

同フェローシップを受けた者は、ただちにインドを訪れ、一定期間(私の場合は2か月間) インド各地の文学者・研究者を対象にレクチャーをするという決まりがありました。テーマはこちらに一任されましたので、私は「日本」を前面に打ち出すことにし、『日本の文化と魂』、『日本語と日本文学』、『日本におけるサラスヴァティー(弁才天) 信仰の歴史と現状』などのテーマでレクチャー(英語)を行ないました。

あとで聞いたところ、これが各地で非常に受けたのだそうです。

このときの活動がご縁で、アカデミーと私のあいだには深い信頼関係が育ち、以来、さまざまな場面で仕事を任されるようになりました。

### 駐日インド大使館で開催された「印日文学祭2015」

フェローシップをいただいた時から数えて8年後の2015年、九段のインド大使館から連絡がありました。いわく、「アカデミーの主催で、大使館のVCC(ヴィヴェーカナンダ文化センター) 講堂において印日文学祭を開催したいと考えている。ついては貴殿に日本語と英語のバイリンガルのモデレータ(司会進行役)をお願いしたい」。

またしても青天の霹靂ではありましたが、日本では前年8月のモディ首相来日以来、「日本におけるインド祭2014-2015」が開催中。



印日文学祭もその一環として位置づけられていたのです。

私はそれまで唯の一度もインドの文学祭に参加したことがなく、いきなりのモデレータ就任はいささか不安でしたが、アカデミーからの達ての指名でしたし、初の女性大使だったディーパ・ワドワ大使（当時）からも「適役ですよ」と背中を押され、引き受けることになりました。

同文学祭には、インドから6名、日本から7名の作家・詩人・文学者が登壇しました。まず「インドと日本の文学—歴史的関係と未来の課題（Indo-Japanese Literature: Historical Links and Future Challenges）」をテーマとした第一部（午前）、次いで詩人たちによる詩の朗読、昼食、そのあとは「スートラ、クーラル、俳句—インドの詩が日本の詩に与えた影響（Sutra, Kural and Haiku: Influence of Indian Poetry on Japanese Poetry）」をテーマとした第二部（午後）へとつづきました。私はこのうちの第一部のパネリストとモデレータを務めさせていただきました。

7月11日一日限りという小規模な文学祭でしたが、当日はタゴール、岡倉天心、ヴィヴェーク・ナナダなどの作品に話題が沸騰し、文学をテーマに日印関係を深掘りすることの面白さを改めて感じました。

私自身は、一般にほとんど知られていない三島由紀夫とインドの関りについて私見を述べました。下記URLから全文をお読みいただけますので、ご興味がおありの方はご高覧ください。

[yamadamami.com/literaryfestival2015.html](http://yamadamami.com/literaryfestival2015.html)

## アジア最大の国際文学祭「ウンメーシャ2025」

ここからは、私が2025年に招待された二つの文学祭についてご報告いたします。

9月25日から28日までの4日間、アカデミーの主催により「ウンメーシャ2025：表現の祭典」がビハール州パトナにおいて開催されました。

ウンメーシャは「開くこと」「表現」「出現」「発展」などを意味するサンスクリット語です。同文学祭は2022年にシムラ、2023年にボパールで開催され、今回が3回目の開催となりました。

公式ブックの表紙に大きく「アジア最大の国際文学祭」と謳っているだけのことはあり、出席者数は作家、詩人、学者、翻訳者、出版関係者など、インドを含む15か国から550名。ただし日本人は私しかおらず、少なからず寂しく感じました。

特筆すべきは、参加言語数が100以上にのぼったという点でしょう。世界第二位の多言語国家（第一位はパプア・ニューギニア）であるインドならではの超マルチリンガルぶりで、活気と混沌を同時に感じさせられました。

ウンメーシャの会期中は、5つの会場で合計88のイベントが開催されましたが、そのうち46のイベントがテーマごとに分かれてのパネルディスカッション。残る42のイベントが詩の朗読。この数字を見ただけでも、インド人がいかに「議論」と

「詩の朗読」を愛して止まないか、おわかりいただけると思います。

今回、私はインド、スペイン、ブルガリアから参加した作家・学者・元外交官とご一緒のパネルディスカッションで、『ソフトパワーならびに国際外交としての文学』のテーマで意見を述べてまいりました（使用言語は英語）。

このような文学祭に参加しなければ、外国人作家と知り合う機会は滅多にないものです。今回私は、世界32か国で本が出版されているブルガリアの超人気作家ズドラフカ・エフティモヴァさんと知り合い、滞在中は毎回の食事をご一緒し、互いの家族の誕生日や学生時代のニックネームまで教え合うような友達関係を築くことができました。彼女からは私の短編小説を読みたいと言われています。

もしも私が今後、短編小説を書き始めたら、そこには彼女の影響があったかも知れません。インドの文学祭には、そんなふうに作家の未来を変えてしまいかねないほどの熱いエネルギーが満ちているのです。

### インド北東部で行なわれた「第七回アルナーチャル文学祭」

「ウンメーシャ2025」から約2か月後の、11月20日から22日までの3日間、今度はインド北東部のアルナーチャル・プラデシュ州イターナガルで「第七回アルナーチャル文学祭」が開催され、再びご招待を受けて行ってまいりました。

私にとって同州訪問は4回目でしたが、文学祭への参加はこれが初めて。約70名の参加者のうち「いちばん遠い外国（日本）からやって来た作家」として、皆さんから下へも置かぬおもてなしを受けました。

ちなみに「二番目に遠い外国」からやっていらっしゃったのは、ブータン初の女性作家として名高いクンサン・チョデンさん。チョデンさんとも何度か食事の席で一緒になり、お互いの仕事の話などができたのは忘れられない思い出です。チョデンさんと私以外の参加者は、皆さんインド国内からいらっしゃっているようでした。

さて、アルナーチャルは中国・ブータンと国境を接し、インド最東端（インドで一番早く太陽が昇る場所）に位置します。地名の意味は「日いずる山」。そのためでしょうか、アルナーチャルには「日いずる国」として知られる日本に対して特別に好意を寄せる人が多く、文学祭では私が「日本人」とあるというだけで、サインを求められたり、行く先々でツーショットをお願いされました。

今回の文学祭で、私に課せられた仕事は二つ。一つ目は、4名のインド人作家と共に『世界文学とは何か』のテーマでパネルディスカッションすること。二つ目は朗読でした。

朗読を頼まれた時は、一瞬、戸惑いました。「私は詩人ではないので自作の詩がありません」と一旦はお断りしたのですが、「朗読するのは必ずしも詩でなくて構いません」と返されてしまいました。確かに、朗読にはPoetry reading（詩の朗読）とProse reading（散文朗読）の2種類があり、後者なら私にもできそうです。



考えた末に、例の、アカデミーからフェローシップを受けた記念すべき作品、“Wheel of Destiny”から2ページを選んで朗読することにしました。

というわけで今回、生まれて初めて、自分が書いた英語作品を大勢の聴衆の前で朗読するという貴重な体験をさせていただいたわけですが、背筋を伸ばし、顔の表情を豊かに、心を込めて文章を読み上げると、想像以上に気持ちよく、インド人が朗読を好む気持ちがすぐに理解できました。

第一、私が文章を読む進めるたびに聴衆の顔の表情は刻々と変わり、笑い声や驚きの声などさまざまな反応が起こるので、それによって（なるほど、読者さんは物語のこの箇所喜んでくれるのだな）とか、（この部分はもう少しドラマティックな表現に書き直すべきかも）などと瞬時に気づかされます。実に学ぶことの多い朗読体験でした。

以上、いくつかの文学祭の様子を駆け足でご紹介してまいりました。これらはあくまでも私の個人的体験に基づくご報告に過ぎませんが、インドとインド人を理解する上で、何かのご参考になれば幸いです。

最後に一言ご挨拶を。私は2015年から10年間にわたり、年に一度、インド工科大学ハイデラバード校の教壇に立ち、日本文化に関する集中講義を行なってまいりましたが、このたびご縁あって、同大グワハティ校（アッサム州）の客員教授として日本文化を講じることになりました。これを機に、今後はインド北東部の文化をさらに深く掘り下げてみたいと考えておりますので、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、この場をお借りして何卒よろしくお願い申し上げます。



1) ブルガリアの人気作家ズドラフカ・エフティモヴァさん（左）と筆者 ©Mami Yamada



2) 第七回アルナーチャル文学祭で「世界文学とは何か」をテーマに発言する筆者（左から2人目）とインド人作家の皆さん ©Mami Yamada

# インド・メーラー2025を終えて

インド・メーラー実行委員会 東登子

10月11日（土）から13日（月・祝）の3日間、神戸メリケンパークにて「インド・メーラー2025」が開催されました。

3日間とも、天気にも恵まれ、在大阪神戸インド総領事館をはじめ、ご協力くださった皆様のおかげで、県内外から沢山の皆様にご来場いただき、無事閉幕することができました。

ご来場いただいた皆様からは、インドを思う存分「観て」「感じて」「体験する」3日間を味わえた、などのお声をいただき、日印架け橋の一端を担えたのではと感じております。

関西での日印文化、経済の相互理解と交流の輪を広げ、さらなる発展の場として、これからも活動を続けて参ります。





# ゴア州

## 概要

- \* 州都：パナジ
- \* 人口：1 4 6 万人（2011年国勢調査）
- \* 面積：3, 7 0 2 km<sup>2</sup>（県（District）：2）
- \* 識字率：8 8. 7 %（2011年国勢調査）
- \* 宗教別人口比率：ヒンドゥー教（66.1%）、  
キリスト教（25.1%）、  
イスラム教（8.3）
- \* 主要言語：コンカニ語、マラーティー語



## 政治

### （1）州政府

- \* 州知事：プサパティ・アショク・ガジャパティ・ラジュ  
(Pusapati Ashok Gajapati Raju)（2 0 2 5 年 7 月～）
- \* 州首相：プラモド・サワント (Pramod Sawant) (B J P)（2 0 2 2 年 3 月～）

### （2）州議会：一院制（定員 4 0：2 0 2 7 年 3 月任期満了）

- \* 与党連合 (NDA)：インド人民党 (B J P) 2 0 議席、  
マハラシュトラワディ・ゴマンタク党 (M G P) 2 議席、その他 3 議席
- \* 野党： kongress 党 (I N C) 1 1 議席、庶民党 (A A P) 2 議席、その他 2 議席  
(注：2 0 2 2 年 3 月、議会発足時議席数)

### （3）概況

2 0 0 7 年－2 0 1 2 年は I N C が政権を担ったが、2 0 1 2 年以降は B J P 主導政権が継続。2 0 1 7 年州議会選挙では I N C が 1 7 議席で第一党となったが、1 3 議席を獲得した B J P が他の少数政党の支持を得て政権を樹立。2 0 2 2 年選挙では B J P が 2 0 議席、NDA として 2 5 議席を獲得し、サワント州首相（2 0 1 9 年就任）が再任された。

2 0 2 2 年 9 月には I N C 議員 8 名が B J P に鞍替えし、NDA 政権の安定が強まった。連邦下院同州枠 2 議席は、B J P と I N C が 1 議席ずつ、連邦上院 1 議席は B J P。

## 經濟・産業

### (1) 主要指標

- \* 名目州内総生産(G S D P)：1兆0, 653億ルピー (2023年度)
- \* 1人当たり所得(名目G S D P計算)：67万4, 686ルピー
- \* 実質G S D P成長率：7. 13% (名目G S D P成長率：13. 7%)(2023年度)
- \* 州内総生産産業別構成比：
 

第一次産業	6. 4%
第二次産業	52. 0%
第三次産業	41. 6% (2022年度、州経済白書)

## (2) 概況

観光業が主要産業で、州内総生産の 2 割弱を占め、雇用の約 35% を賄っている。鉄鉱石、マンガン、ボーキサイトといった鉱物資源の産出、輸出により、かつてはインド有数の鉱業州であったが、2018 年に鉱山リースの無効化、大規模閉鎖があったため、鉱業はほぼ停止（2024 年に再開の動きあり）。製造業（医薬品、化学、機械、食品加工等）及び建設業を中心とする第二次産業が大幅に成長している。

(3) 進出日系企業：1社、15拠点（2024年10月現在）

ビルラ古河・光ファイバー、ダイキン、タタ日立建機等

## 観光・その他

(1) 16世紀初めより4世紀に亘りポルトガルの植民地支配下に置かれた。ポルトガルは、ゴアをアジアにおける交易とキリスト教伝道の根拠地とし、教会、修道院、欧風の街並みが建設され、一時は「黄金のゴア」と称されるほど賑わった。天正遣欧使節が1683年(往路)と1687年(復路)に立ち寄っている。

(2) 1947年のインド独立後もポルトガルはインドからの領土返還要求を受け入れず、1961年、インドは武力解放によりゴアを併合し、1987年に連邦直轄地から州に昇格させた。

(3) 聖フランシスコ・ザビエルの遺体が安置されているボム・ジェズ教会を始めとするキリスト教建築群が「ゴアの教会群と修道院群」としてユネスコ世界遺産に登録されている。

(4) アラビア海に面する港都市を中心とする州であるが、白い砂浜のビーチ、ヤシの木、熱帯の海、森林、川、丘陵など自然環境が豊かで、インド国内でも有数のリゾート地。インドは原則としてギャンブルが禁止されているが、ゴア州は州法でカジノが合法化されており、カジノ・ホテル、カジノ・リゾート、船上カジノ等もある。



## <インド映画公開情報>

### WAR バトル・オブ・フェイト

リティク・ローシャン、NTRジュニア共演のスパイアクション



かつて国家を裏切り、姿を消した伝説のスパイ、カビール。かつての英雄は、いまやインド最大の脅威となっていた。冷酷で神出鬼没、誰も止められない存在となったカビール対し、政府が放つ最後の切り札はインド軍の精鋭ヴィクラム。過去のある出来事によってすべてを失った男は、「カビールの抹殺」という使命に突き動かされ、その戦いはカビール個人への復讐へと変わっていく。インドの映画製作会社ヤシュ・ラージ・フィルムズが手がけるスパイアクションシリーズ「YRFスパイユニバース」の最新作。『WAR ウォー！！』（2019）に続き、リティク・ローシャンが伝説のエージェント・カビール役、『RRR』（2022）で人気が高まったNTRジュニアがヴィクラムを演じる。

監督：アヤーン・ムカルジー

出演：リティク・ローシャン、NTRジュニア、キアラ・アドヴァニ

原題：WAR 2

2025年/インド/ヒンディー語/174分

配給：ツイン

©YASH RAJ FILMS PVT. LTD. 2025

2026年1月2日（金）新宿ピカデリーほかにて公開

<https://war-movie.com/>

### プシュパ 君臨

インド映画史上ナンバーワンヒット作



横浜港に到着した南インドにのみ自生する高級木材、紅木（こうき）の積荷。そのコンテナの中から現れたのは、密輸王プシュパだった。底辺の労働者から密輸組織の頂点まで成り上がったプシュパは、国境を超えて勢力を伸ばしながら、政治の中核へと支配を広げていく。一方、かつて屈辱を与えられた警視シェーカーワトは復讐に燃え、プシュパを徹底的に潰そうと動き出す。やがて、警察や政府を巻き込んだ三つ巴の抗争が始まる。テルグ語映画界のヒットメーカー、スクマールが監督し、主演のオール・アルジュンは、前作『プシュパ 覚醒』（2021）でインド国家映画賞最優秀俳優賞を受賞。インド映画史上興収1位の話題作※。

監督・脚本：スクマール

出演：オール・アルジュン、ファハド・ファーシル、ラシュミカー・マndanナ

原題：PUSHPA: THE RULE - Part 2

2024年/インド/テルグ語/222分/PG12

配給：ギークピクチャーズ・松竹

© Mythri Movie Makers 2024

※Sacnilkデータ

([https://www.sacnilk.com/entertainmenttopbar/Top\\_10\\_Indian\\_Movies\\_\(India\\_Net\\_Collection\)](https://www.sacnilk.com/entertainmenttopbar/Top_10_Indian_Movies_(India_Net_Collection))) による。

2026年1月16日（金）新宿ピカデリーほかにて公開

<https://pushpa-kunrin.jp>

## マライコッタイ・ヴァーリバン

アート系映像作家が大御所俳優と組んだ「極限映像詩劇」



インド中を旅し、様々な地で土地の最も強い者に戦いを挑み勝利してきた男、マライコッタイ・ヴァーリバン。長い旅路の末、最強の戦士となって故郷に戻ったヴァーリバンは、西欧人の植民地下にある民たちを支配から解放すべく、役人たちに宣戦布告。彼らとの勝負に挑む、無敵のヴァーリバンは果たして勝利することが出来るのか。命運を懸けた大勝負が始まる。アカデミー賞外国語映画賞インド代表に選出された『ジャッリカトゥウ 牛の怒り』(2019)を手掛けた鬼才、リジョー・ジョーズ・ペッリシェーリ監督が、マラヤーラム映画界の至宝俳優モーハンラールと初めてタッグを組んだ、壮大な話題作。

監督・脚本：リジョー・ジョーズ・ペッリシェーリ

出演：モーハンラール、ソーナーリー・クルカルニ、ハリーシュ・ペーラディ

原題：Malaikottai Vaaliban

2024年／インド／マラヤーラム語／156分

提供：JAIHO／配給：グッチーズ・フリースクール（協力：安宅直子）

©2024 Century Max John Mary Production LLP . All Rights Reserved

2026年1月17日（土）シアター・イメージフォーラムほか全国順次公開

<https://www.malaikottai2026.com>

編集：印度映画広報室

インドの「おいしい」「安全」を  
日本へお届けしつづけ、24年。

**Makaibari JAPAN**  
Tea Boutique & Tea Salon  
**HAPPY HUNTER INDIA**

有限会社マカイバリジャパン (マカイバリ茶園アジア・日本総代理店)  
東京都中野区沼袋 4-38-2 Tel: 03-5942-8210 Fax: 03-5942-8211 [makaibari\\_japan.tea@makaibari.co.jp](http://makaibari_japan.tea@makaibari.co.jp) [www.makaibari.co.jp](http://www.makaibari.co.jp)  
**ISHII TRADING PRIVATE LIMITED (インド会社)** [india\\_happyhunter.info@ishii.co.in](http://india_happyhunter.info@ishii.co.in)  
E52 Hauz Khas Main Market, New Delhi-110016, INDIA

元ネルー大学教授ブレム・モトワニ氏がメールマガジンにてインドからお届けする「インドの今」。  
ご登録は、マカイバリジャパンのホームページから。 [www.makaibari.co.jp](http://www.makaibari.co.jp)

ガネーシャ通信



## ＜書籍紹介＞

日印協会の会長である菅元総理がこの度回顧録を出版しました。

### 『菅義偉 官邸の決断』



### 総理退任後初の回顧録

著者：菅義偉 定価：2,200円（税込） 発売日：2025年12月3日  
発行：ダイヤモンド社 判型：四六判・上製・1C・292頁

国家運営の舞台裏から読み解く、リーダーのあり方

本書は、官房長官として約8年、総理として約1年、国家の最前線に立ち続けた菅義偉氏自らが、官邸で何が行われ、どのように決断が下されてきたのかを詳細に明かす総理退任後初の回顧録です。  
内容をぜひご覧ください。

## 学生限定

### 「第2回インド・キャリアカフェ」開催報告

去る12月12日（金）17時より、協会会議室において、学生限定イベント「第2回インド・キャリアカフェ」を開催いたしました。今回お招きした講師は、外務省文化交流・海外広報課長の権田藍氏で、大学生7名の参加がありました。

権田氏からは、これまでのご経歴についてご紹介いただいた後、インドにおける日本のプレゼンスについて、自らのご経験を踏まえてお話いただきました。例えば、インドは地政学的に重要な位置にあり、日本のODA（円借款）の最大の供与先であるなど、戦略的にも重視している国ですが、そうした政治・経済の側面だけでなく、文化的・人的にも交流を年々深めているといったこと。また、日本のODAをもとに整備された地下鉄（デリーメトロ）について、車両というハードを供与するだけでなく、女性専用車両や整列乗車といった運用面も含めたインフラ全体をパッケージで支援することで、インド社会に対してより良いインパクトを与えているといったこと。そして、インドを含め海外では日本に対する関心が高まっており、日本語教師に対する需要も増しているといったお話もありました。

その後参加者との間で、外務省での仕事の様子やインドでの生活などについて、活発な質疑応答が行われました。終了後には、権田氏は業務の為途中退出されましたが、参加者間で和やかな懇親会が行われました。

#### （参加者の声）

- ・ 外交の視点からインドについて知ることができとても興味深かったです。
  - ・ 外務省の方のお話をうかがうことができてとても有意義でした。（同意見多数）
  - ・ 自分が知らないことが多々で勉強になりました！ 私も現地に行きたい気持ちが強くなりました！
- など





## 日印協会からのご案内

### 会員限定「天竺茶話会」

講師の方を招いて、あらかじめ決めたテーマで参加者の方々と話し合うお茶会です。

インド通の方、もっともっとインドについて知りたい方、インドについて詳しくなりたい方、皆様のご参加をお待ちしております。  
どうぞお気軽にご参加ください。

- 《テーマ》 グジャラートから見たインド社会－女性起業家たちとレジリエンス
- 《講師》 川根 友氏  
(慶應義塾大学日印研究・ラボ上席所員)
- 《日時》 2026年1月23日(金) 14:00-15:30 (受付開始13時45分)
- 《会場》 公益財団法人日印協会 会議室  
東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル 6階
- 《定員》 約18人※定員数になり次第、締切らせて頂きます。
- 《参加費》 お茶菓子とお茶代 1,000円(当日現金)
- 《お申し込み》 メール「[partner@japan-india.com](mailto:partner@japan-india.com)」  
または、電話 TEL: 03-6272-4408



日印協会の年末年始についてご案内申し上げます。  
年内営業：12月25日まで

(2025/12/26～2026/1/5は閉店とさせていただきます)

年始営業：1月6日 10時より

期間中は何かとご迷惑をお掛け致しますが、何卒ご了承の程、お願い申し上げます。

### 公益財団法人日印協会

住所： 〒102-0083 東京都千代田区麹町1-6 麹町保坂ビル6階  
電話番号： 03-6272-4408 ファックス： 03-6272-4135  
メール： [partner@japan-india.com](mailto:partner@japan-india.com)  
ホームページ： <https://www.japan-india.com>  
MJIA(Monthly Japan-India Association)  
2025年12月号 (2025年12月19日発行)  
発行人：齋木 昭隆 編集人：三谷 礼子



## 編集後記～紅茶のお話①Darjeeling First Flush～

この編集後記は、当会の非常勤職員のK.K氏から頂いたダージリン・ファーストフラッシュを飲みながら書いています。日印協会に勤務して1年が経ち、「協会で働けて幸せだな」と感じる瞬間の一つは、こうしてインドの美味しい紅茶が毎日飲めることです。

ということで、編集後記の場をお借りして、紅茶にまつわる小話を記したいと思います。読者の中にはインドに仕事や旅行で行かれています方、あるいはインド在住の方も多いため、今更と感じられることもあるかもしれませんが、ご容赦ください。



ダージリン・ファーストフラッシュ (Darjeeling First Flush) とは、ダージリンの初摘みのことです。摘む時期は4月上旬からの2～3週間と短く、少量しか採れないので希少価値が高く、珍重されます。茶葉の形状は全てOP (オレンジ・ペコ) ※タイプで、その香りはマスカットなどのフルーツに例えられます。



※茶葉の長さが10～15mmの針金状で、芽の部分を多く含みます。写真の真ん中に見える白っぽい茶葉は「銀の芽」といわれるシルバーチップです。以前このシルバーチップだけを集めた紅茶を飲んだことがあります。香りは干し草のようでありつつも、味は甘みがあり美味しかったです。



Firstの後には、5～6月に成長した2回目の茶葉、Second Flushが続きます。Firstに比べるとより紅茶の味や香りが強く、ダージリンの最高級品が生まれるのもSecondです。その後、Third Tea、そして秋摘みのAutumnal (Fourthでは無いんですね) が最終となります。秋摘みだから味が落ちるということでもなく、ヨーロッパではミルクティーとして人気があるそうです。

上の写真は茶葉が「ジャンピング」という熱対流の上下運動をしているところです。こうすることで針金状の茶葉もしっかり開いて、より美味しく紅茶を淹れることができます！

最後にクイズです。インドは言わずと知れた世界最大の紅茶生産国ですが、紅茶の一人あたりの消費量世界一の国はどこでしょうか？

生産量一位のインド？ それとも、紅茶文化の代表格イギリスでしょうか？

答えは、トルコです。トルコでは「チャイ」が日常的に飲まれているそうです。「チャイ」と言えばインドではミルクティーのイメージですが、トルコでは小さなチャイグラスに砂糖を入れて（ミルクは入れずに）飲むということで、それが国民的な飲み物になっているんですね。ちなみに、2位はアイルランド、3位がイギリスと続きます。

いよいよ年の瀬も迫り、会員の皆様もお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。本年も格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。来る年もさらなるサービスの向上を目指し、より一層の努力をしてまいりますので、変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

向寒の折から、お身体を大切に、どうぞ良いお年をお迎えください。(日印協会 三谷礼子)



# <法人会員一覧>

2025年12月19日現在 (50音順)

## 特別法人会員 72社

株式会社 朝日新聞社  
ARMS株式会社  
医療法人社団 育健会  
株式会社伊藤園  
伊藤忠商事株式会社  
インド日本商工会  
ウェブスタッフ株式会社  
弁護士法人 瓜生・糸賀法律事務所  
エア・ウォーター株式会社  
株式会社エイチシーエル・ジャパン  
株式会社NTTドコモ  
株式会社川内美登子・植物代替療法研究所  
キャノン株式会社  
クエスト・グローバル・ジャパン株式会社  
蔵町工業株式会社  
黒崎播磨株式会社  
株式会社グローバルヒューマニー・テック  
国際縄文学協会  
国際スポーツ振興協会  
公益財団法人 国際文化会館  
小島国際法律事務所  
株式会社小松製作所

サントリーホールディングス株式会社  
ジェンパクト株式会社  
ジャパンペガサスツアー株式会社  
株式会社シンリョー  
スズキ株式会社  
住友商事株式会社  
株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド  
世界開発協力機構  
世界芸術文化振興協会  
全日本空輸株式会社  
総合警備保障株式会社  
双日株式会社  
第一三共株式会社  
第一生命ホールディングス株式会社  
大日本印刷株式会社  
株式会社大和証券グループ本社  
千代田化工建設株式会社  
ティー・アイ・シー協同組合  
株式会社ディー・エヌ・エー  
株式会社TTJ・たちばな出版  
一般財団法人東京芸術財団  
株式会社東芝  
株式会社東横イン  
戸田建設株式会社  
豊田通商株式会社

鳥飼総合法律事務所  
株式会社日新  
日本航空株式会社  
株式会社日本視聴覚社  
日本製鉄株式会社  
日本タタ・コンサルタンシー・サービシズ株式会社  
東日本旅客鉄道株式会社  
株式会社菱法律・経済・政治研究所  
株式会社日立製作所  
フィデル・テクノロジーズ株式会社  
株式会社フジタ  
富士フィルム株式会社  
株式会社プレジール  
ポラリス・キャピタル・グループ株式会社  
松田総合法律事務所  
丸紅株式会社  
株式会社MIXI  
株式会社ミスズ  
三井物産株式会社  
民間外交推進協会 (FEC)  
三菱商事株式会社  
武蔵野メディカルシステム株式会社  
株式会社メタルワン  
郵船ロジスティクスグローバルマネジメント株式会社  
株式会社ライズ・ジャパン

## 一般法人会員 144社

株式会社IHI  
株式会社IPパートナーズ  
株式会社アシックス  
有限責任あずさ監査法人  
アセアン・ワン株式会社  
A'ALDA PTE. LTD.  
株式会社 安藤・間  
アーチ株式会社  
いすゞ自動車株式会社  
株式会社インフォブリッジマーケティング&プロモーションズ  
株式会社INPEX  
エア・インディア リミテッド  
SBSホールディングス株式会社  
株式会社エトワール海渡  
株式会社NGC  
株式会社FTO  
エンビジョンエンタプライズソリューションジャパン(株)  
冲印友好協会  
株式会社 オリエンタルコンサルタンツグローバル  
株式会社オリエンタルランド  
オーウィル株式会社  
株式会社オープンハウスグループ  
加賀電子株式会社  
鹿島建設株式会社  
カナデビア株式会社  
亀田製菓株式会社  
関西学院大学  
株式会社クボタ  
株式会社熊谷組  
株式会社 啓文社  
株式会社 ケー・アンド・エル  
鴻池運輸株式会社  
株式会社交洋  
株式会社講談社  
酒井重工業株式会社  
株式会社 サカタのタネ  
公益財団法人笹川平和財団  
株式会社 サンウェル  
山九株式会社  
三洋化成工業株式会社  
G-8 INTERNATIONAL TRADING 株式会社  
JFEスチール株式会社  
JGREEN POWER PRIVATE LIMITED  
株式会社システムコンサルタント  
株式会社静岡ガス  
株式会社静岡銀行  
有限会社シタール

品川イーストクリニック  
有限会社ジューストラベル  
株式会社商船三井  
鈴与株式会社  
住友重機械工業株式会社  
住友電気工業株式会社  
住友不動産株式会社  
積水ハウス株式会社  
セコム医療システム株式会社  
ZEUS LAW  
生活協同組合コープさっぽろ  
医療法人社団創生会 町田病院  
SOMPOホールディングス株式会社  
大成建設株式会社  
ダイキン工業株式会社  
株式会社大創産業  
株式会社タマインベストメントエデュケーションズ  
学校法人都築育英学園  
露木興業株式会社  
TMI総合法律事務所  
ティー・ディー・パワーシステムズ・リミテッド  
株式会社 帝国ホテル  
帝人株式会社  
株式会社テクノロジーONE  
株式会社テレビ朝日  
株式会社テレビ東京  
株式会社デンソー  
TECH JAPAN 株式会社  
株式会社TBSホールディングス  
株式会社電通  
東京海上日動火災保険株式会社  
東洋アルミニウム株式会社  
東レ株式会社  
飛島ホールディングス株式会社  
トヨタ自動車株式会社  
株式会社トピア  
内外トランスライン株式会社  
株式会社中村屋  
株式会社ナベル  
株式会社ニトリホールディングス  
株式会社ニフコ  
西村あさひ法律事務所  
日印ビジネス支援協会株式会社  
日産自動車株式会社  
日精エー・エス・ビー機械株式会社  
NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社  
税理士法人 日本経営  
日本信号株式会社  
株式会社 日本経済新聞社

日本航空電子工業株式会社  
公益財団法人日本交通公社  
一般財団法人 日本国際協力センター  
日本テレビ放送網株式会社  
日本電気株式会社  
日本放送協会  
株式会社 日本マルコ  
日本郵船株式会社  
日本電子株式会社  
野村不動産株式会社  
野村ホールディングス株式会社  
株式会社ノリタケカンパニーリミテド  
ハikal ジャパン  
株式会社博報堂  
株式会社 阪急交通社  
阪和興業株式会社  
パナソニックホールディングス株式会社  
株式会社ピーアイ・ジャパン  
BEYOND NEXT VENTURES株式会社  
株式会社BS日本  
BLS INTERNATIONAL SERVICES LIMITED  
公益財団法人フォーリン・プレスセンター  
富士通株式会社  
株式会社フジテレビジョン  
富士電機株式会社  
BAKER TILLY ASA INDIA LLP  
国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学  
フォースバレー・コンシェルジュ株式会社  
株式会社ボルテックス  
前田建設工業株式会社  
株式会社みずほ銀行  
三井住友海上火災保険株式会社  
株式会社三井住友銀行  
三菱重工業株式会社  
株式会社三菱UFJ銀行  
株式会社ミツバ  
一般社団法人MEDICAL EXCELLENCE JAPAN  
森・濱田松本法律事務所  
株式会社ヤクルト本社  
株式会社安井建築設計事務所  
ヤマハ発動機株式会社  
ヤマヤエレクトロニクス株式会社  
ユービーエルジャパン合同会社  
豫洲短板産業株式会社  
読売新聞東京本社  
学校法人立命館  
YKK株式会社  
医療法人社団和風会

JAPAN AIRLINES



新しい翼で、世界の空へ。

JAL 羽田-デリー線、成田-ベンガルール線  
好評運航中!



おかげさまでJALグループは、8年連続で  
世界最高ランクの5-STAR AIRLINE\*に認定されました。  
\*2025年SKYTRAX社認定



明日の空へ、日本の翼